

ISOを知る、伝える、広げる、会報誌

Vol.103

ISONET

BL-QE

center for better living



CAD/CAMシステムを導入した住宅設備メーカー、株式会社イシモク・コーポレーションの製造ライン

ISO改正特集

ISO9001,ISO14001規格改正情報

- 第3回 JABマネジメントシステムシンポジウム
- ISO14001改正国際シンポジウム
- Information 最新の規格改正状況
— ISO9001/ISO14001/ISO45001 (OHSAS18001) —

ISOで進化する組織紹介

株式会社イシモク・コーポレーション

ISO導入で社員の意思統一を図り、
増収増益を続ける住設メーカー

北から南から

BL-QE新規登録組織

2014年12月度～2015年2月度
登録組織からのお喜びと抱負の言葉を紹介

BL-QE Information

- 一般財団法人ベターリビング
システム審査登録センター
組織変更のお知らせ

Seminar Information

- ・ISO9001 内部監査員養成研修会
- ・2015年度セミナー開催予定

ISO9001,ISO14001規格改正情報

2012年に始まったISO9001,ISO14001マネジメントシステム規格の改正作業は、3年目の大詰めに入り、各委員会では、最終国際規格案(FDIS)の作成作業が進んでいます。一般財団法人ベターリビングでは、すでに一昨年から規格改正の進捗状況、改正内容についての情報発信をしておりますが、最近、ISOの適合性の認証に関わる公益財団法人日本適合性認定協会(JAB)、日本工業規格(JIS)の発行を行う一般財団法人日本規格協会(JSA)などでも、改正についての説明会が頻繁に開催されるようになってきました。今回は、今年開かれた二つのシンポジウムについてレポートいたします。

「第3回JABマネジメントシステムシンポジウム」

開催:2015年3月19日 有楽町朝日ホール(東京都千代田区)

主催:公益財団法人 日本適合性認定協会(JAB)

毎年開催されるこのシンポジウムでは、今年のテーマを「2015年改正に対応するマネジメントシステム」として、4つのテーマでの講演、パネルディスカッションが行われました。

- 基調講演「ISO9001,ISO14001規格改正の要点」
- 研究報告
 - ・WG1「2015年の改正が製造業のQMSに与える影響・インパクトを考える」
 - ・WG2「DIS9001に基づくQMS構築のポイント～サービス業におけるQMSを改めて考える～」
 - ・WG3「ISO14001(2015年版)への具体的な対応」

「ISO9001,ISO14001規格改正の要点」

ISO9001規格改正についての日本代表委員の一人、筑波大学ビジネスサイエンス系 山田 秀教授は、今回のマネジメントシステム改正の大きな要点として、(1)組織を全体的に俯瞰して組織の方向性を考え、マネジメントシステムの適用範囲を決定する。(2)経営層のリーダーシップによってそれぞれのマネジメントシステムを組織の事業に組み込む。(3)マネジメントシステムの構築からマネジメントシステムの効果、結果を重視するという3点を挙げ、改正されるマネジメントシステムは、経営層によって、経営の役に立てることができるマネジメントシステムに強化されるとしている。

3つのワークグループからは、国際規格案(DIS)を基に、品質マネジメントシステムについては製造業、サービス業、環境マネジメントシステムについては、各要求事項について具体的なアクションを検討し、研究発表が行われた。

ワークグループ1(WG1):2008年版に比べて考え方が整理され、求められるものが明確になった。しっかり活用すれば、組織の状況の理解から経営者の意思決定とその実行、監視・測定・分析・評価とつながるループが作りやすくなりやすくなっている。このループでの経営者の意思決定(マネジメントシステムへの関与)が今まで以上に重視されるのではないかと。

ワークグループ2(WG2):少人数のサービス業をモデルとして研究を進めた結果、「潜在顧客も含めた顧客ニーズを組み込み

やすい」「小規模組織のパフォーマンス向上につながりやすい」「状況の変化に対応しやすいシステム」「経営持続のための不可欠な要素が揃っている」。このようなことから戦略的な品質マネジメントシステムを構築する事ができるのではないかと。

ワークグループ3(WG3):環境マネジメントシステムについてのまとめでは、「双方向の環境影響評価」「環境パフォーマンス指標」は、すでに組織では考えていた事であり、リスク評価についても、組織の課題、守らなくてはならない法、環境影響についてのリスクもすでにその要素は盛り込まれていた。こう考えると、今回の改正によって多少の拡大、追加項目はあるものの基本的には2004年版の仕組みを見直すチャンスというような改正といえる。

このような講演の後、パネルディスカッションが行われ、今回の規格改正による影響・インパクトが4項目にまとめられた。

今回の規格改正による影響・インパクト4項目

- ▶戦略的マネジメントシステムの強化
内外の課題に対するリーダーシップの強化
- ▶事業プロセスへの統合
附属書SL(共通文書)による構造、用語の共通化
- ▶品質、環境パフォーマンスの改善
目標パフォーマンスの達成を重視。良いマネジメントシステム、良いプロセスから良い結果(良いパフォーマンス)が出ることが重要(何によって、何が得られたか)。プロセスだけ、結果だけを見ていくのではない。
- ▶顧客満足
ISO9001では、顧客満足の向上から、さらに積極的に顧客満足を追求する事で事業の継続的成功を目指すように考えられている。環境マネジメントシステムでも、利害関係者とのコミュニケーションを重視することは、環境についての顧客満足とも考えられる。

「ISO14001改正国際シンポジウム」からの報告

開催:2015年2月9日(月) 経団連ホール(東京都千代田区)

主催:一般財団法人 日本規格協会(JSA)

ISO14001マネジメントシステム規格改正についての国際委員会会合が、2015年2月に初めて日本で開かれ、それに出席した委員たちによるシンポジウムが2月9日に開催されました。規格を作成している委員たちの話を直に聞くことができる貴重な機会ということで、多くの関係者が集まった。

このシンポジウムに参加した各国を代表する委員の方々には、

ボッシュ、シーメンスといった世界トップ企業で経営に携わる方が多く、ISOのマネジメントシステム規格は、こういった経営についての専門家たちによって作成されていることが確認できた。

また、講演の後のプログラムでは、「環境経営の革新に向けて～ISO14001改正への期待と課題」というタイトルで、富士通、コニカミノルタ、花王といった国内産業界を代表する組織や認証機関によるパネル討議などを通じて、改正を踏まえた今後の環境経営の在り方について、さまざまな観点からの考察・提言が発表された。

プログラムの中から、規格改正作業のトップ、このワークグループのコンビナーであるスーザン・ブリッグス氏の講演をレポートします。ISOでEMS規格改正担当のトップが語る規格改正の意図するところです。

ISO14001改正の内容と意図～事業と一体化した戦略的環境経営～

今回の改正の目的は、環境マネジメント分野に新たなアプローチを取り入れ、進化している企業および企業を取り巻くすべての利害関係者の期待を満たすことで、ISO14001がこの先20年にわたり価値ある存在であり続けるようにすることである。

トップマネジメントに関する新たな要求事項の主要点

今回の改正では、組織と環境マネジメントシステム（以下、EMS）にとつての重要かつ戦略的な課題についての理解が求められる。例えば、●組織が影響を与えるか、または組織が影響を受ける環境状態、●規制や技術、経済、競争などの外部要因、●ガバナンス、事業戦略的な方向性などの内部要因、●ステークホルダーのニーズと期待などがある。

また、「リスクと機会」について、有害なリスクをもたらす、または有益な機会を与える主要な課題について、優先順位をつけて取り組む。正式なリスク評価の方法論は要求されていないが、リスクを軽減し、機会を活用するための取り組みを計画することが求められる。

環境方針については、「環境保護」「順守義務の履行」「継続的改善」についてのコミットメントが求められ、●組織の目的、●活動

および製品・サービスの性質、規模および影響、●目標を設定するための枠組みの提示について適切な方針を立てる必要がある。この「環境保護」には新たに●気候変動の緩和及び気候変動への対応、●生物多様性及び生態系の保護が加わった。

マネジメントレビューでは、組織に関連するリスク/機会の変化、環境パフォーマンスや目標達成の程度について評価し、EMSの適切性、妥当性、有効性を改善するために必要な処置を特定していく。環境パフォーマンスの向上に焦点を当て、有害な環境影響を低減し、また有益な影響を増加させることで、継続的改善へとつなげていくことが求められる。

以上のような要求事項を満たすには、トップによるリーダーシップとコミットメントが不可欠であるが、トップが権限委譲を許されることは、●環境方針や環境目標が組織の状況と戦略的な方向性と両立することを確実にする、●EMS要求事項が事業プロセスに統合されることを確実にする等、主として実行部分についての内容についてであり、直接の関与が必要なことには、●有効な環境マネジメントおよびEMS要求事項への適合の重要性を伝達する、●EMSの有効性に寄与する人々を指揮・支援する等、最高責任者としての指揮・監督部分への関与が見える、聞こえるといった直接的な関与が求められている。

改正の真の価値とその効果

今回の改正によるEMS運用の価値と効果は、環境だけではなく、組織にも良い効果をもたらすことを目指し、企業の競争力強化を目的とした内容があげられている。

- ▶ マネジメントシステム間の不一致や差異を減らし、内部プロセスを統合・整備する。
- ▶ 環境問題を優先しながら、競争上の優位性をもたらす機会にも重点を置くリスクベースシンキングを採用する。
- ▶ 持続可能な開発に関する、環境上の要求事項を満たす。
- ▶ 包括的なマネジメントシステムの実践をステークホルダーに納得してもらい理解を得る等がある。

Information 最新の規格改正状況

ISO9001, ISO14001規格改正作業は、遅れ気味ですが、今年中には両規格とも邦訳され、JIS（日本工業規格）として公示される見通しです。

4月1日現在の状況

■ISO9001規格改正状況

ISO9001の国際規格案（DIS）が承認され、寄せられたコメントについての対応が進められています。次のステップ最終国際規格案（FDIS）の発行は、7月頃とされています。この最終国際規格案（FDIS）が発行されると、国際規格（IS）として承認するか否かの2ヶ月間の投票が行われ、承認されると国際規格（IS）ISO9001:2015として9月には、英語、フランス語で発行されると言われています。これが邦訳されJIS Q9001:2015として12月には公示される予定です。

■ISO14001規格改正状況

ISO14001の国際規格案（DIS）が承認されて次のステップに進み、今年2月2日から7日の東京会合で集まったコメントへの対応が検討され、最終国際規格案（FDIS）が起草される予定でしたが、検討が終了せずに、4月にロンドンで再度会合が持たれることになりました。これによって最終国際規格案（FDIS）の発行は5月～6月頃となりましたが、最終国際規格案（FDIS）を発行して投票を行い、9月頃には国際規格（IS）が発行される見込みです。このISO14001:2015が発行されると邦訳され、11月～12月にJIS Q14001:2015が公示される予定となっています。

■ISO45001(OHSAS18001)規格改正状況

OHSAS18001は、ISO化の作業が進められていますが、今年1月に開催されたトリニダード・トバゴ会合では委員会原案（CD）の投票が不調に終わり、現在第2委員会原案（CD2）が起草されています。これから国際規格案（DIS）、最終規格案（FDIS）とステップを進め、ISO45001として、2016年に発行される予定です。

BL-QEからのお知らせ

■規格改正移行説明会（無料）の開催について

一般財団法人ベターリビングシステム審査登録センターでは、最終国際規格案（FDIS）が発行され、その邦訳版が出版された段階で、国際規格（IS）発行以前から、新規格の説明会を開催するよう準備を進めています。裏表紙に「規格改正移行説明会（無料）」開催についてのお知らせを掲載しております。ぜひご参照ください。

北から南から

BL-QE
新規登録組織

2014年
12
月度

ISO 9001 登録組織

登録番号	企業名	所在地	登録内容
Q1529	日軽産業 株式会社 建設エンジニアリング部	静岡県静岡市	建築物・土木構造物及び設備・電気工事の設計・施工
Q1530	株式会社 大神 本社	佐賀県佐賀市	一般産業用機械の設計・開発及び製造、据付引渡し並びにそのメンテナンス業務全般

ISO/IEC 27001 登録組織

登録番号	企業名	所在地	登録内容
ISO70	株式会社 パイオニア・ソフト	福岡県福岡市	本社及び東京事業所におけるシステムコンサルティング、システム構築(設計、開発)、業種・業務パッケージの開発及びカスタマイズ・運用サポート、ネットワーク導入の構築、情報処理サービス、ソフトウェア及びコンピュータ機器の販売

2015年
1
月度

ISO 9001 登録組織

登録番号	企業名	所在地	登録内容
Q1531	株式会社 TCS	東京都荒川区	小規模修繕工事
Q1532	サン電子 株式会社 埼玉事業所	埼玉県児玉郡	テレビ共同受信システム用機器の設計・開発、製造及び付帯サービス(引取り修理) ・増幅器・アッテネータ・分岐器・壁面端子・分配器 ・マルチメディア情報BOX・混合器・変調器・分波器・光伝送機器・フィルタ

ISO 14001 登録組織

登録番号	企業名	所在地	登録内容
E427	株式会社 TCS	東京都荒川区	小規模修繕工事

ISO/IEC 27001 登録組織

登録番号	企業名	所在地	登録内容
ISO71	株式会社 ベレーザコーポレーション システム事業部	大阪府東大阪市	ITアウトソース受託、ソフトウェア開発、ネットワーク構築、ヘルプデスク
ISO72	サンビット 株式会社	福岡県福岡市	システム開発の受託業務
ISO73	新日本システム・サービス 株式会社	大阪府大阪市	・情報処理に関するアウトソーシングサービス(受託計算、ハウジング、遠隔運用監視) ・顧客要求事項に基づくソフトウェアの設計・開発及び保守 ・情報システム(機器及びパッケージソフトウェア)の販売

OHSAS 18001 登録組織

登録番号	企業名	所在地	登録内容
OH008	佐藤企業 株式会社	熊本県熊本市	土木構造物の施工及び付帯サービス

2015年
2
月度

ISO 9001 登録組織

登録番号	企業名	所在地	登録内容
Q1533	株式会社 西日本住宅サービス	大阪府大阪市	集合住宅等に係る修繕工事
Q1534	株式会社 KNコーポレーション 本社工事部及び名古屋支店工事部	神奈川県横浜市	都市再生機構から受注する小規模修繕工事
Q1535	有限会社 オワリ	愛知県名古屋市	土木工事の施工
Q1536	明和ペンディクス 株式会社 松戸工場	千葉県松戸市	各種プラスチック加飾製品の製造・販売
Q1537	株式会社 スタイレックス	東京都新宿区	設計、設計・工事監理、建築デザイン
Q1538	株式会社 スガナミ製作所 本社 及び スガナミ物産 株式会社 本社営業部	広島県福山市	国内外製作品のエンジニアリングに基づく製缶機械加工、鋳鍛鋼品の製作
Q1539	株式会社 リフォル 本社	福岡県北九州市	インテリア空間の設計及びコンサルティング

ISO 14001 登録組織

登録番号	企業名	所在地	登録内容
E428	株式会社 西日本住宅サービス	大阪府大阪市	集合住宅等に係る修繕工事
E429	株式会社 KNコーポレーション	神奈川県横浜市	建築物の施工及び集合住宅の維持・管理業務

お喜びと抱負の言葉

今回新規の認証登録をされた組織の方々からのお喜びと抱負の言葉をご紹介します。

OH008 佐藤企業 株式会社

活力あふれる企業をめざして



代表取締役社長
大畑 秀樹 様

弊社は昭和39年熊本に創業、地域発展に寄与し顧客の皆様に満足していただける企業を目指し昨年50年を迎えました。激しく変わる社会環境の中、会社の存続・発展を目的とし2000年よりISOの認証取得に取り組み品質・環境に続き今の労働

安全衛生MSの認証取得は今後の弊社の存続・発展に大きな武器となると信じております。これからも、旧体質を打破し時代に合った組織、社会ニーズに合った会社作りを目指しシステムの継続的改善をさらに進めてまいります。

IS071 株式会社 ベレーザコーポレーション

情報セキュリティ意識を高め、より良いサービスを提供します。



代表取締役
入江 孝吏 様

ベレーザコーポレーションでは、主に情報部門のアウトソース受託を行っております。お客様のネットワークをオンラインでメンテナンスさせていただいているため、かねてより情報セキュリティの要求が高く、このたび顧客満足度向上の為に取得

いたしました。加えて、社内の情報セキュリティ意識を高め、組織強化のツールとして活用させていただいております。今後は情報セキュリティ商材の開発や販売に大いに役立てていきたいと考えております。

Q1538 株式会社 スガナミ製作所

当社品質マネジメントシステムの活用により、顧客の感動を得る



代表取締役社長
高田 隆志 様

当社は、工場を持たない製造業です。提供する事業は、『国内外製作品のエンジニアリングに基づく、製缶機械加工・鋳鍛鋼品の製作』です。

この度、ISO9001の認証を取得しました。全従業員が、品質マネジメントシステ

ム(QMS)のプロセスを理解し、適切なエンジニアリング技術と製作管理により、品質と価格の優れた製品を提供します。お客様のために役立ち、社会に貢献すると共に、全従業員の幸福を追求します。

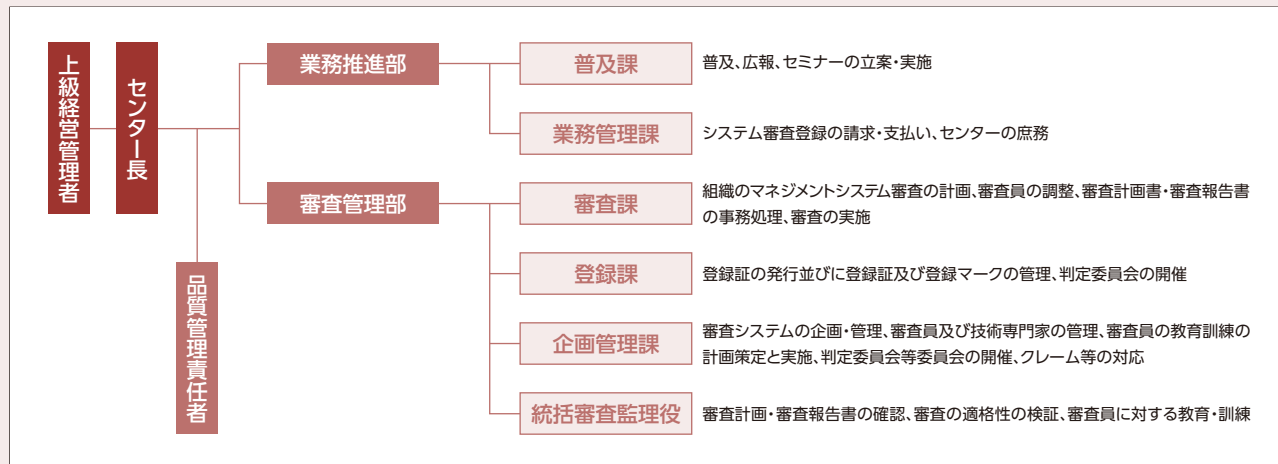
BL-QE Information

一般財団法人ベターリビング システム審査登録センター

組織変更のお知らせ

皆様へのより充実したサービス向上を目指して、4月1日付で組織を変更いたしました。新体制のもと、今まで以上に皆様のお力になれるよう努力してまいりますので、今後ともご愛顧くださいますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

■一般財団法人ベターリビング システム審査登録センター 組織図(2015年4月1日)



ISO導入で社員の意思統一を図り、増収増益を続ける住設メーカー

株式会社イシモク・コーポレーション

株式会社イシモク・コーポレーションは、福岡県大川市に本社を置き、4カ所の工場に住空間を演出するさまざまな製品をオーダーメイドで製造している。提供する製品はお客様の希望をもとに自社でトータルコーディネートし、CAD/CAMシステムを使って設計から生産まで一貫して行う。業界に先がけて、1998年にISO9002(2003年にISO9001へ移行)、2005年にISO14001の認証を取得した。今回はその運用や取り組みについて、代表取締役社長の石井泰彦氏と品質管理部次長の大園新二氏にお話を伺った。

すべての内装関連製品をトータルコーディネート

株式会社イシモク・コーポレーションが本社を構える福岡県大川市は、生産量日本一の木製家具の産地だ。16世紀半ばごろから木工業が盛んに行われてきたこの地域は、家具、建具に組子、彫刻といった匠の技で“大川ブランド”の木製品を生みだしてきた。イシモク・コーポレーションのルーツも、ここ大川で製材所として創業し、その後、木材・合板を販売する木材店へと変化した。

木材店の二代目であった石井泰彦社長は、取引先に誘われて訪れたアメリカの全米ホームショウを見て、「将来、日本の住宅はこのように変わっていく」と直感したという。帰国後、先代に「材料としての木材販売だけではなく、住宅と関わりのあるものを作っていきたい」と懇願。翌年の1969年に、玄関収納などの住宅設備の製造・販売事業を数名のスタッフとともに立ち上げた。

「家具を作っているのではなく、住宅に不可欠な内装に関わるすべての製品を作りたいと考えました。そこで、据付け家具のような収納関連製品を建材店発で販売する新しいビジネスモデルをスタートさせたのです」と石井社長は話す。

現在のイシモク・コーポレーションは、収納関連製品から、室内ドアやクローゼット、洗面化粧台、窓枠、ドア枠、床材なども製造し、住宅メーカーと共同で事業

を進めている。しかも、住宅内に設置される内装関連製品のすべての部材を、統一したデザインやカラーコーディネートでまとめ上げることを行う。「お客様の要望をもとに自社でコーディネートし、内装に関わる製品をトータルで提案できるのがわが社の強み」と石井社長は話す。生産拠点として大川市の本社周辺に3カ所の工場を構えるほか、2014年には神奈川県で関東工場を稼働させている。

各工場で作られる製品は、すべてに“〇〇邸”向けというように個別の名前が付けられている。顧客の要望に合わせて、自社で開発したCADシステムで図面データを作成し、そのデータをCAMシステムで製造ラインに送る。図面データがそのまま出荷まで一貫して流れていくため、作業者が工場現場でデータを入力することがなくなり、人為的なミスを取り除くことにつながった。また、小ロット生産への対応も可能になった。これらの成果は、いままでの木工業界ではほとんどなかった同社の製造法によるものだという。

「CAD/CAMシステムを導入したのは10年ほど前です。特注も受けますが、基本的には40万種類に及ぶ部材の中から10点20点と組み合わせでひとつの製品を作ります。製造工程でミスをなくし、いかに効率よく生産することができるか、その点を考えてCAD/CAMシステムを作り上げました」と石井社長。

「家具をひとつずつ揃えると統一感がなくなるものですが、当社がコーディネートまで行えばデザインや色を統一でき、お客様にも気持ちよく生活していただけです。お客様の思いが細分化してきたので、オーダーメイドに近いカタチで

製造できることは大事です。お客様の要望にお応えすることで企業は存続していくのですから」と話を続けた。

業界に先がけて取得したISO“品質”の申請第1号

イシモク・コーポレーションは、1998年にISO9002(2006年にISO9001へ移行)の認証を取得。その後、2005年にISO14001の認証を取得した。

「品質マネジメントシステムについては、わが社はベターリビング システム審査登録センターへ新規登録の申請をした組織の第1号でした。当時、業界でのISO認証取得の例はまだなかったと思います。お客様目線で物事を見る訓練をするためには取得が必須と思い、すぐに手を挙げました。環境マネジメントシステムも企業の責任として必要だと考えたので、認証を取得しました」と石井社長は当時を振り返る。

当初はISOマネジメントシステムで使われる用語や言い回しが理解できずに苦労したという。ただし、「会社の現状を知ることが必要だとわかってからは、自社の“いま”をつぶさに理解できたのは収穫だった」とも話す。

石井社長と二人三脚でISO導入に取り組んだ品質管理部の大園新二次長も、

「当社は職人が多いので、ISOの概念や理念を全員が理解するまでに少し時間がかかりました。各所に横文字が出てくるのですが、すんなりと頭に入らなかった理由のひとつかもしれません。



代表取締役社長
石井泰彦氏



品質管理部 次長
大園新二氏

品質と環境、それぞれのISOマネジメントシステムに社員が馴染むまで3年ほどかかったと思います」と導入後の苦労を話す。

「ただし、審査に関して審査員を固定していただいたのは大変ありがたかった。当社はISO認証取得のスタート時から適用規格の変更や適用範囲の拡大についても理解された上で審査するよう配慮していただけて助かりました」と大園次長は付け加えた。

社員の考え方統一に役立つISO 7期連続の増収増益はその成果

ISOマネジメントシステムの審査を受けると、少なからず課題が見つかる。最低限これをやっておけばいいと思えば、中身が形骸化してくるからだ。イシモク・コーポレーションの場合も、次のステップを当たり前のこととして捉えるのではなく、ステップアップにつなげるよう指導を受けた。もちろん良い点も多くある。

「他社と比較することがないので自社の得意な部分を私的に見てしまいがちですが、審査員から良い点として評価されることで、改めて自社の秀でたところに気づくことがあります。例えば、複数の製品をトータルでコーディネートしていく考え方や切り口は、特許技術ではなくても独自色のある優位なものだと教えられました」と大園次長は話す。

ISOの導入は社員の考え方や意識を統一することにも役立った。「その効果から、当社は7期連続で増収増益です」と石井社長はISO導入を推進してきたことに胸を張る。ISOマネジメントシステム規格のそれぞれに共通要求事項が盛り込まれるなど改正が控えていることに対して、「当然そこはきちっとやっていく」と話す。

「ISOの認証を取得している企業が多くなり、認証取得による差別化がなくなりつつありますが…」と話す大園次長は、さらにこう続ける。「改正によるISOのポイントは、トップダウンにあります。企業のシステムから業績まで、リーダーシップが大きく影響を与えていると捉えています。危機管理に関しては、どう対応するかがお客様から求められるところですが、この辺りもISOで支えられており、時代に合った改正だと感じています」

オリジナルの接着技術で木材を布に？ 技術開発も自社で推進

イシモク・コーポレーションの強みは、まだある。内装関連製品を作る上で欠かせない“接着”の技術だ。木材同士や木材と紙類を付けるのがこの業界での接着剤の役割だったものを、木材とガラス、木材と金属といった異素材を完璧に接着する技術を確立した。この技術をもとに新製品の開発にも力を入れ始めている。



本社屋

「接着の技術開発は、社内でも継続して行っています。その成果として、0.5ミリ薄まで研いだ木材に接着剤を浸透させて柔軟性のある木質素材を作り、それを織って自動車のシートに使える木製の布ができるようになりました。この布状の素材は大手自動車メーカーのコンセプトカーに採用されました」と石井社長。

接着技術開発者のほかに製造機械を作る人材も自社で抱えている。ものづくりを進めて困った点や工夫したい内容を機械メーカーに要望しても、なかなか応えてもらえないからだという。

「それなら自分で作ろうという発想で、オリジナルの機械を製造する株式会社マシンテックを設立しました。独自の設備でものづくりができれば、他社がまねのできない製品を生み出すことが可能になります」と石井社長はさらなる成長を望む。イシモク・コーポレーションの社は「私たちは、限りなく可能性に挑戦し続けます。」のように、今後の展開が楽しみだ。

■組織概要

社名 株式会社イシモク・コーポレーション
本社 〒831-0005 福岡県大川市向島1703
創業 1948 (昭和23) 年
資本金 62,000千円
(イシモク・コーポレーショングループ計)
代表者 代表取締役社長 石井泰彦
従業員数 289名
(イシモク・コーポレーショングループ計)

■運用システム

ISO9001:2008/ISO14001:2004

■品質方針

お客様から安心され信頼される会社を目指し、「業界NO.1の顧客満足度を得るために、限りなく可能性に挑戦し続けます。」そのために品質に対する全社員の意識の向上をはかり、高品質の製品をお客様に提供し続けます。

1. 顧客第一主義

- お客様の要求に答えられる製品の品質を提供します。
- 生産計画どおりに生産活動を行うことによってお客様に商品をジャストインタイムで提供します。
- 新しい技術の導入と創意工夫を結集し原価低減を目指します。

2. 全社員の品質活動への参加

- ISO9001のマネジメントシステムに枠組みに基づく業務を遂行し、方針管理のP,D,C,Aを回しプロセスの改善を続けます。
- 社員一人一人が自己能力の向上に努めます。

■事業内容

▶住宅設備の製造

住空間を演出する、ドア・クロゼット・システム収納・壁面材・キッチン・洗面化粧台などを、ジャスト・イン・タイムシステムと自動化の生産方式を導入した、3つの工場生産

▶他業界とのコラボ商品の開発・製造

某自動車設備会社との木製部品や木製内装システムの開発。また、某音響メーカーと業務提携し、収納設備の開発・製造を行っています。これから、更なる業務提携を拡大していく予定

■環境方針

基本理念

当社は、住宅部品の製造を通じてお客様に信頼を得られる企業を目指した事情活動を展開しています。地球環境の保全を果たすことが、企業として必須の条件であることを認識し、環境美化・環境保全に積極的に貢献することを基本理念とし、社員一人一人が環境保全に取り組み、地域社会、顧客との相互理解に基づいた環境管理活動を目指します。

基本方針

1. 当社の事業活動において環境に与える影響を認識し、環境保全を推進するとともに、環境マネジメントシステムの継続的改善を図ります。
2. 環境に関する法規制及び当社が同意するその他の要求事項を遵守し、汚染の予防に努めます。
3. 住宅部品の製造により環境に与える負荷を低減させ、循環型社会の形成に貢献します。

■全社環境目的・目標設定

環境方針	環境影響評価	環境目的 41期～43期	環境目標 42期
		○ ○	○ ○
○ ○	○ ○	廃棄物の削減 40期廃棄物総量 1591tに対し、3年間で 95t (6%) 削減する。	①工程内不良を削減し、木屑を17t削減する。 ②購入基材を正寸で購入し、木屑の発生を11t削減する。 ③敷板、リンギを長期使用できるように改善し、木屑の発生を1t削減する。 ④紙屑の発生を1t削減する。
○ ○	○ ○	電気エネルギーの削減 40期351万KWH/年使用量に対し、3か年で21万KWH/3年削減する (6.0%削減)。	全社で7万KWH (2%削減量) /年間削減
○ ○	○ ○	リサイクル率向上 廃棄物を 100%リサイクルする。	①木くずと金具 (金属類) を100%分別し、廃棄物から有価物へ転換する。 ②廃プラの分類を細分化し、廃棄物から有価物へさらに転換する。 ③エコ商品を購入し、設計提案を行う。 ④木屑をリサイクルする方法を検討する。
○ ○	○ ○	クリーク清掃活動	①空缶拾いを1回/月実施する。 ②除草作業を1回/月実施する。

Seminar Information

一般財団法人 ベターリビング システム審査登録センター主催

ISO9001 内部監査員養成研修会 (2日コース)

お申込受付中

研修会の内容

- マネジメントシステムの改善につながる内部監査は、業務の改善が期待できます。今回の内部監査員養成研修会では、マネジメントシステムの改善ポイントを発見し、業務を改善していくための考え方をロールプレイを通して習得していただきます。
- マネジメントレビューに結果を報告する事ができる提案力のある内部監査員の養成を目指しています。
- 新しく管理者になられた方、事務局などのISO部門に配属された方のマネジメントシステムを理解する上で役に立つ内容となっています。
- 年内に予定されている規格の改正によって内部監査の方法に大きな変更はありません。今回の研修会は、規格改正も視野に入れた解説を行います。

研修会の概要

- 講師: 間瀬 雅彦 (JRCA品質マネジメントシステム主任審査員)
- 開催日時: 2015年6月11日(木)・12日(金) 9:00~17:00
- プログラム: 第1日▶ISO9001規格・内部監査についての解説
第2日▶不適合指摘・是正処置の方法・ロールプレイ・理解度テストを実施
- 開催場所: 一般財団法人ベターリビング 7階会議室B/C
(東京都千代田区富士見2-7-2 ステージビルディング7階)
- 受講料: ◎弊社登録組織 **32,400円/人(税込)** (お二人目から **21,600円/人(税込)**)
◎一般 **43,200円/人(税込)**
(テキスト代、昼食代、修了証代を含みます)
- 定員: 24名 (定員になり次第、締め切らせていただきます)
- 申込方法: 同封の申込書に必要事項をご記入の上、FAXでお送りください。
受講証、ご請求書をお送りいたします。お申込み後、7日過ぎても受講証が届かない場合には、下記お問い合わせ先までご連絡ください。

2015年度セミナー開催予定

2015年度 上半期

- ISO14001内部監査員養成セミナー 2日コース
東京 2015年9月9日(水) 10日(木)
- ISO14001規格要求事項についての解説・説明会(無料)
東京 2015年7月22日(水) 14:00~17:00の予定
※右記の「規格改正移行説明会」と異なり、改正されたISO14001の要求事項について解説いたします。

開催についてのお知らせ、お申し込みの方法等は、メールマガジン「ISO NEWS」、DM郵送などによって、後日お知らせいたします。

「規格改正移行説明会」(無料)

7月頃から開催予定の新規格への認証登録移行についての説明会は、品質・環境両方の規格の「最終国際規格案(FDIS)」の邦訳版が発行されてから、全国各地で順次、開催いたします。現在の開催予定地は、札幌、青森、秋田、仙台、大宮、東京3回、名古屋、大阪2回、広島、福岡、鹿児島となっております。日程など詳細が決定次第、郵送文書、メールマガジン「ISO NEWS」及び会報誌「ISONET」などでご案内いたします。

▶「規格改正移行説明会(無料)」の開催地については、ご希望の地域がございましたら、出来る限りご希望に沿うよう計画させていただきたいと思っております。皆さまのご希望を下記お問い合わせ先までお寄せください。

2015年度 下半期

- ISO9001内部監査員養成セミナー 2日コース 東京
- ISO27001内部監査員養成セミナー 2日コース 東京
- OHSAS内部監査員養成セミナー 2日コース 九州
- 改正規格による内部監査員レベルアップセミナー 1日コース 東京/関西
- 経営層のための規格改正についての情報交流会(10月、11月) 東京/関西

▶ ご要望に応じて、各種セミナーの開催を企画しています。また、企業内セミナーへの講師派遣も承っておりますので、下記までお気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ先

一般財団法人 ベターリビング システム審査登録センター

業務推進部 普及課 担当:山賀 TEL:03-5211-0603 E-mail:info-blqe@cbl.or.jp

本誌は、弊社登録組織から受領した「品質/環境/情報セキュリティ/労働安全衛生マネジメントシステム審査登録申請書」に記載されている「申請者」宛に、発行の都度送付しております。送付業務は、効率的に一日も早くお届けできるように、弊社から「宛名ラベル」を提供し発送を委託しております。弊社センターは、発送委託業者との間における請書において、再委託業務も含めた機密保持義務を課す項目を定め管理を徹底するように努めております。今後ともこのような対応をいたします。

ISO NET (Center for Better Living) Vol.103 2015年4月22日発行
発行 一般財団法人 ベターリビング システム審査登録センター
代表者: センター長 東ヶ崎 清彦
担当: 業務推進部 普及課
TEL: 03-5211-0603 FAX: 03-5211-0594
ホームページ: <http://www.cbl.or.jp/>

